

# I G S NEWS 抄訳

Vol. 12 No. 3 Nov. 1996

I G S日本支部 編集委員 大倉 史郎

**EuroGeo1成功裡に実施 (p1~2) フォスカンプ理事** 1996年9月30日~10月3日、マーストリヒトで開催されたEuroGeo1には、49の国から512名が参加した。当初かかげた50%以上という目標には達しなかったが、参加者の30~40%はこの種の催しには初めて参加する人達であった。また、58社が参加した展示会では、別途に招待状を発行したので、約350名が会議とは別に来会した。会議では5篇のキーノート講義と150以上の論文発表があった。5つのI G Sヨーロッパ支部が、夫々のセッションを組織し、加えて10のワークショップ、3ショートコース、8つの討議、ポスターセッションでいろんなトピックスがとりあげられ、実際的なケーススタディも連日行われた。10月2日には、龍岡教授のマーサーレクチャー、I G S賞の表彰があり、翌日はマーストリヒト近郊のランドフィル現場の見学会が行われた。1066ページの会議録はBalkema (Postbus 1675, NL-3000 BR Rotterdam, The Netherlands)から購入することができる。

**EuroGeo1における会長メッセージ(p3) ジョーンズ会長** I G Sオランダ支部が中心になって組織された今回のEuroGeo1は、顕著な成功を収めたといえる。理論より実践にウエイトをおいたところに特長があり、来会者の30~40%をニューカマーで占めたことも特筆されるべきである。次回EuroGeo2が更に期待される。

**I S九州(p3)ロウ前会長** I S九州も今回で第3回目となり、33ヶ国から445名の参加者、151の論文発表という数字が示すように、この分野での重要会議としての地位が確立されたことは明らかである。会議はジョーンズ教授のオープニング講演につづいて3篇の基調講演で開始された。ハイライトとしてノースリッジと兵庫県南部の2大地震時の補強土壁の挙動に関する報告があった。最終日には、“試験方法と材料” “設計手法” の2つのテーマに分かれて、集約的な討議が行われた。151の論文の内訳は、試験と材料が32、堤防が20、壁構造48、基礎が27、斜面と掘削が24に分類できる。2巻の会議録はBalkema (前出)から購入することが可能である。価格は約160ドル。

**会員から教育問題に関する投稿(p4) Mark S. Meyers** (寄稿者のMeyers博士は米国ミネソタ州セントポールの陸軍工兵隊に勤務する地盤工学エンジニアで、投稿はI G S NEWS 1995年7月号に掲載されたホルツ教育委員長の「ジオシンセティックス教育におけるI G Sの役割」と題する記事に関連したものである)。

①教師を教育するプログラムは100%賛成である。②標準的な設計手順は、使用の仕方を誤ったため問題をおこすことが多々あるので、確かな専門技術者の意見を求めることが必要であり、地域のいろんな規制の中にも盛り込まれるべきである。陸軍工兵隊は、セントポールの地域からエ

エンジニアリングマニュアルの開発を要望されたが、技術がまだ流動的であるという理由で進んでいない。③コンピュータープログラムについては、現在利用可能な設計に関するソフトは、メーカー主導のものや特定の方式にかたよったもので、適切なソフトの開発が望まれる。④エキスパートシステムについても、もっと平易に利用でき、手軽に持ち歩けるものがのぞましい。

**会員の投稿への回答(p4~5)ホルツ前教育委員長** ①教師の教育プログラムに賛同いただき感謝する。②標準的な設計手順の問題は、1例として早くから指摘したもので、殊に補強土壁の場合などは夫々の現場毎に対応しなければならないことである。地域の規制の中に盛り込まれることにはあまり賛成できない。陸軍工兵隊がジオシンセティックス技術がまだ流動的であるという理由で、マニュアルの開発を見送っているのは残念である。FHWA（ハイウェイ）では、最初のマニュアルを1983年に作り、その後、技術の変化に合わせて何度も改訂している。③コンピューターについては、指摘される問題はその通りだが、IGS単独では解決がむづかしい面がある。④エキスパートシステムを含めた色んな手段は、不適切な使用者によって誤用される危険は存在する。IGSの役割としては、高レベルのものを適切に普及させることである。

**1996年IGS表彰(p5~6)ガーツング表彰委員長** 1992~95年の業績に対するIGS表彰の受賞者は既報の通り次の4氏であるが、10月2日、EuroGeolの席上で表彰式が行われた。

学会賞     ブルーム（ドイツ）  
              パルメイラ（ブラジル）  
              ロウ（カナダ）

奨励賞     ゾーンバーグ（アメリカ）

今回の表彰は、1994~97年の業績に対して1998年アトランタ大会で行われるが、設計や工事の実務を担当する事業会社のエンジニアからもっとノミネートされるよう希望する。また、提出書類の量を少なくすることが望ましい。なお、日本から落合英俊教授が表彰委員会のメンバーに入っている。

**アランマックゴウン教授受賞(p7)** Alan McGown 教授はジオシンセティックスの研究開発に関する永年の業績により、CBE (Commander of the British Empire) をエリザベス女王から授与された。

**IGS理事選挙結果(p7)** 昨年実施された郵便投票で8理事が新たに選出された。新理事の氏名は前号で紹介済であるので省略する。

**欧州における補強土に関する論文集(p7)** The Practice of Soil Reinforcing in Europeと題するもので、22の論文が収録されている。62ポンド（送料込み）で入手することが可能。連絡先はThomas Telford Services Ltd.で担当はFiona Shepherd (Tel. 44 171-987-6999 ext 423)とのこと。アドレスは本誌前号に記載している。

**カーナー博士に二重の栄誉(p8)** 1998年の第6回IGS大会のジル―レクチャーにこの程カーナー博士が選ばれた。これはIGS大会におけるオープニング基調講演が、ジル―博士の功績を記念して、ジル―レクチャーと命名されてから最初のものである。カーナー博士は昨年アメリカ土木学会のテルツァーギレクチャーにも選ばれており、二重の栄誉に浴したことになる。

**IGS会長、副会長、理事の立候補者募集(p8~9)** 1998年3月アトランタでの第6回大会時の通常総会で次期会長、副会長の選挙が行われ、また、それに先立って実施される理事選出の郵便投票結果も発表される。この選挙には、IGSの会員であれば誰でも立候補可能で、希望者は1997年3月1日までにIGS事務局へ届け出が必要である。現在、バタースト副会長が会長への立候補を表明している。理事選挙の郵便投票は本年秋頃実施の予定だが、この度改選される理事は、カズフィ（イタリア）コリン（アメリカ）グルク（フランス）ホルツ（アメリカ）ヒャーテン（ドイツ）リモルディ（イタリア）龍岡（日本）フォスカンプ（オランダ）の8氏である。これらの任期はいずれも1998年から4年間である。本件についての問い合わせはIGS事務局またはジョーンズ会長まで。

**IGS賞（1998年）の候補募集(p9)** 1994~97年の業績に対する表彰が、1998年アトランタで行われる予定であるが、その受賞者を募集する。賞の種類は今までと同じく学会賞と奨励賞で、推薦者、被推薦者ともにIGSメンバーに限定、自薦、他薦いずれも認められる。また、委員会や支部からの推薦も可能であり、被推薦者はグループでもよい。推薦の期限は本年9月1日まで、本人の受諾は12月1日までである。詳細問い合わせはIGS事務局まで。

**大学院生のジオシンセティックス論文リスト(p10)** IGSでは大学院生のジオシンセティックス関連論文のリストを編纂中である。論文は作成後1年以内のもので、著者名、タイトル、学位作成日、監修者、大学名とアドレス、概要（250字以内）をIGS News編集者またはバタースト副会長あて提出してほしい。

**法人会員の紹介(p10)** 法人会員の紹介記事をIGSのWeb siteに掲載することができる。方法は会員自身のWeb siteとIGSのWeb siteを連結するか、会員のWeb siteがない場合にはIGSのWeb siteに直接掲載する。スペースはホームページ1ページ分で、IGS Newsに掲載したものとほぼ同じである。写真も2枚程度可能。詳細はバタースト副会長へ。

**ジオシンセティックス文献目録を無償で大学に配布(p10)** IGSの教育に対する使命を果たす一環として、ジオシンセティックス文献目録を無償で大学に配布することをマーストリヒトの理事会で決定した。各支部では、3月1日までに配布を希望する大学のリストをIGS事務局へ提出してほしい。配布数量は100部の予定で、IGSメンバーがいる大学を優先する。この文献目録は2巻で構成されており、400以上の出版物や研究レポートから収録、また、100以上の著者の文献が収められている。購入するとすれば、会員価格158USドルである。各支部までの送料はIGSが負担するので、その先は各支部の負担で夫々の大学まで送付してほしい。

アジア環境地盤工学会国際セミナー(p11) 昨年7月31日～8月3日、インドのニューデリーで開催、インドの内外から150名の専門家が参加した。この会議の詳細については、本誌前号に赤木教授の開催報告があるので省略する。

I G S ホームページに学生支部を掲載(p12) I G S ではホームページに掲載するため、すべての学生支部がそのリストをバタースト副会長あてに提供するよう希望する。このホームページは学生支部への情報提供や相互の情報交換に利用される。

中国支部の新役員(p12) 昨年6月18日の総会で新役員が次の通り決定した。

会長	Mr. Yang Can Wen
会計	Mr. Wang Yu Ren
前会長	Mr. Liu Zong Yao
副会長	Prof. Cheng Huan, Mr. Bao Cheng-Gang, Prof. Wang Tie Ru
事務局長	Prof. Wang Zheng-Hong

### 法人会員紹介(p13)

・ STEEL DRAGON ENTERPRISE CO., LTD. (台湾)

設立は1994年と新しいが、50年以上の経験を持つアメリカ企業と台湾の合弁である。製品は高密度ポリエチレンのジオメンブレンで、年間1800万㎡の生産能力をもち、ソフトタイプや表面加工など、いくつかのタイプを生産している。工場は嘉義にあるが、マレーシアのセランゴール、アメリカのシカゴに営業所を有し、世界的に営業展開している。

ジオテキスタイルチューブ(p14)Leshchinsky博士 (ジオテキスタイルによる脱水袋に関するレポートで、関連記事は本誌1996年7月号でも紹介されている。ここでは1992年にアラバマで実施された施工について説明する。)

150m長のチューブが4本使用された。チューブは4.2m巾の織布を2枚重ねて両端を縫い合わせたもので、この織布の強度は、タテ方向が70kN/m、ヨコは45kN/mである。織布の目の大きさは2種類で、2本がUSふるい目サイズNo. 70(0.212mm)他の2本がNo. 100(0.15mm)である。スラリー注入は径20cmのパイプで行い、90～120分後に高さ1.5m、長径3.6mの非対称楕円形断面を形成した。注入圧は30kPa以下であった。微細粒の流出を防ぐため、2本のチューブは不織布で裏打ちしたが、織布のみの場合でも微細粒が目をふさぐ効果があり、不織布は必ずしも必要ではない。ただ、縫い目対策としては有効である。1ヶ月後高さが約半分に低下したので2回目の注入を行った。興味あることは、裏打ちのない織布の場合、1ヶ月後に織目から植生の芽が見られたことである。設計上の問題はジオテキスタイルの選定と短期、長期的にチューブの寸法がどうなるかである。これについては、Journal of Geotechnical Engineering, ASCE, Vol. 122, No. 8, 1996, pp. 682-690の 'Geosynthetic tubes for confining pressurized slurry; some design aspects' を参考にされたい。

Geotextiles and Geomembranes (p15) I G S の機関誌。個人会員には非常に有利な特別レートが適用される。投稿も歓迎である。

Geosynthetics International (p15) 上記と同様である。

ヨーロッパの製造業者が協会を結成 (p15) 昨年 8 月、ヨーロッパのジオシンセティックスメーカーが多数集まって協会を結成した。協会の名称は European Association of Geotextile and Geotextile-related Manufacturers, E. A. G. M. で、所在地はフランスである。

イタリア支部ダム現場訪問 (p16) イタリア支部では、昨年 7 月に 13 名が参加して、アルバニアの Bovilla ダムの見学会を実施した。このダムでは、PVC のジオメンブレンに厚手のポリエステルジオテキスタイルを重ね合わせたものが、水密構造のために使用されている。

地震工学特集号の原稿募集 (p16) Geosynthetics International では、地震工学におけるジオシンセティックスの特集を本年 12 月に出版する予定で、その原稿を募集している。ただし、概要の提出期限は 1 月末で既に期限切れである。

第 5 回大会の論文集最終巻が間もなく完成 (p17) 全 4 巻の論文集の第 4 巻目が本年 14 半期に出来上がる旨、組織委員会から発表があった。これには基調講演、パネルディスカッションなどが収録されており、会議の登録参加者には無償で登録アドレスあてに送られる。

ルーマニア支部セミナーを実施 (p17) 昨年 12 月 9～12 日にブカレストで補強土構造の設計と技術というテーマで開催。

ジオシンセティックス補強土壁、急斜面、堤防の設計手法技術委員会 (p17～18) 委員会の長期的な目標としては、これらの補強土壁などの分析や設計のための指標を、既存のガイドラインその他いろいろな材料を合成して作成すること、そして、短期的には補強土のクリープや外力による変形、それに対する設計基準、経験的な変形予測法などについての情報やデータを集めることである。委員会は昨年 11 月に結成され、委員長には龍岡教授が就任した。すべての I G S メンバーには関連の資料を提出してほしい。委員会メンバーに参加の希望があれば龍岡教授まで申し出てほしい。次回委員会は本年 3 月ロングビーチで開催される。

ジオシンセティックス'97 (p18) インド支部により本年 11 月 26～27 日 Bangalore で開催される。  
〔会告〕開催のお知らせに記載。

#### 予定されている国際会議 (p18)

- ・ Sardinia '97 Cagliari, Italy 13-17 Oct 1997
- ・ 6th IGC Atlanta, Georgia, USA 25-29 Mar 1998